

黙示録 13 章 3 節－7 節 スタディーガイド

前回、反キリストがサタンの子孫であるという、ユダヤ人神学者による説をお話いたしました。両者はよく似ており、7つの頭と10本の角を持っています。サタンは支配者が持つ冠、ディアデマを7つかぶっていますが、反キリストは10個のディアデマの冠をかぶっていません。

★ 黙示録 17 章 12 節－13 節

あなたが見た十本の角は、十人の王たちで……、一時だけ王の権威を受けます。この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。

12 節「あなたが見た十本の角は、十人の王たち」 サタンは、歴史の中でイスラエルを圧迫した国々を支配した冠を持ち、反キリストは最後に10人の王たちの国を支配するゆえ、10個の冠を持ちます。

13 節「この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えます。」 終末に立ち上がる合併した国々の10人の王は、心を一つにして反キリストに権威を与えます。いよいよ、サタンと反キリストが世界を支配する、恐ろしい時代に入ります。

★ 黙示録 13 章 3 節－4 節

その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、そして、竜を拝んだ。獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう」と言った。

3 節「その頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしまった。」 打ち殺されたかと思われた、ということばは、実は殺されていないが殺されたように思えた、と解釈することもできます。

しかし、ここで使われていることばは、黙示録 5 章 6 節で「ほふられたと見える小羊が立っているのを見た」と、イエス様のことを言っています。神の小羊であるイエス様は、確実にほふられました。

同様に、ここで獣の反キリストも、確実に死んだと考えられます。しかし、致命的な傷が癒やされて、生き返ったことを語っています。

7つの頭は、歴史的に6つまでは成就していますので、終末の部分の一つの頭が、一旦殺されるものと考えられます。

二人の証人を殺して、世界中から崇められていた反キリストでしたが、二人の証人が復活して召天しました。その後、エルサレムに地震が起こり、都の10分の1が破壊され、7千人が死ぬという恐ろしい出来事が起こったため、人々が天の神を恐れ、心を神に向けます。

そこでサタンは、反キリストを一旦死なせて、生き返らせるものと考えられます。

3節「全地は驚いて、その獣に従い」 人々は生き返った反キリストに従います。

4節「そして、竜を拝んだ。」 サタンを拝んでいます。

人々の心は、神様への恐れから、サタン礼拝へと移ります。

4節「獣に権威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、『だれがこの獣に比べられよう。だれがこれと戦うことができよう』と言った。」 ここからは、反キリストが全世界を独裁します。

この出来事は、ダニエル書にも書かれています。

ダニエル書11章のみことばは、35節までは紀元前の預言が語られていますが、36節からは、終末の反キリストの預言に変わっています。



ダニエル書 11章 41節

彼は美しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる。しかし、エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる。

彼は美しい国に攻め入り、多くの国々が倒れる 美しい国とはイスラエルのことです。

多くの国々が倒れる 世界大戦だと考えられます。

国々が、反キリストの配下に置かれる時、「エドムとモアブ、またアモン人のおもだった人々は、彼の手から逃げる」という不思議な事が起こっています。これは黙示録 12 章で、イスラエルの民がボツラに逃げる時です。

エドム、モアブ、そしてアモン人とは、ヨルダン国の人々です。エドムはヤコブの兄のエサウの子孫、モアブ人とアモン人は、アブラハムの甥のロトの子孫たちです。

このエドムに、イスラエルの民が逃げ込むボツラがあります。麗しい国イスラエルに、反キリストが攻めて来る時、イスラエルの民は古代の親戚に助けられて逃亡します。

★ **ダニエル書 11 章 42 節、44 節－45 節**

彼は国々に手を伸ばし、エジプトの国ものがれることはない。……しかし、東と北からの知らせが彼を脅かす。彼は、多くのものを絶滅しようとして、激しく怒って出て行く。彼は、海と聖なる麗しい山との間に、本営の天幕を張る。しかし、ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。

エジプトは、反キリストから逃れられません。

44 節「東と北からの知らせが彼を脅かす。」 聖書で東はイラク近辺にあるバビロンを表し、北はシリア近辺を表しています。彼らが反キリストを襲ってきます。

ここで、10 人の王のうち、エジプト、イラク、シリアの 3 人の王が倒れる結果になると考えられます。

45 節「彼は、海と聖なる麗しい山との間に、本営の天幕を張る。」 反キリストはエルサレムの神殿の丘に居座って、天幕を張ると考えられます。

45 節「ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。」 反キリストが死ぬという結果を語っています。ところが、彼が生き返る出来事が起こるでしょう。

私たちは、神様のみが命を与えることができ、サタンは命を奪うことはできても与えることはできないということを信じています。しかし現在では、多くの人々が医学の発展により、一旦死んで生き返るといったことが起こっています。

この時にサタンは、二人の証人が復活したように、医学の力を使い反キリストを復活したかのように見せかけるものと考えられます。



黙示録 13 章 5 節－7 節

この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

5 節「この獣は、傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権威を与えられた。」 3 年半である 42 カ月、傲慢なことを言い、神をののしることを許されます。

6 節「彼はその口を開いて、神に対するけがしごとを言い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをののしった。」 彼の口から出るののしりの言葉を、人々は信じて惑わされます。

7 節「彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され」 これは、多くの人々が反キリストの言葉に惑わされ、真の神様を信じる聖徒たちを殺すことが許されています。

ここからの殉教者の数は、想像を絶するものになると考えられます。

黙示録 9 章 4 節で、「ただ、額に神の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された」と記されていますから、7 章で額に神の印が押された 14 万 4 千人の伝道師は守られます。



黙示録 7 章 9 節、14 節

その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立っていた。……「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で洗って、白くしたのです。」

これらは、世界中の異邦人殉教者のことで、大患難時代に死に至るまで忠実であった人々のことです。

黙示録 13 章 7 節「あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。」 反キリストに世界中を支配する権威が与えられます。

これと同様の預言が、ダニエル書に記されています。

★ ダニエル書 7章 23節-24節

彼はこう言った。「第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

23節「第四の獣は地に起こる第四の国。これは、ほかのすべての国と異なり、全土を食い尽くし、これを踏みつけ、かみ砕く。」 これは、イエス様の時代のローマ帝国のことを語っています。

しかし、ローマ帝国によっては、この預言は一部分しか成就していません。ローマ帝国は、第三の獣であるギリシャほど広大な土地を占領していません。

「全土を食いつくし、これを踏みつけ、かみ砕く」という預言の成就是、まだ未来のことです。人類史上、世界全土を支配した国はまだありません。

24節「十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。」 黙示録と同じ預言です。

10人の王の後に、もう一人の王が立つというのが反キリストです。

◆MEMO◆



OMEGA MINISTRIES
ΩMEGA BIBLE STUDY